



汗！先生たちの枝打ち体験

8月2日、可茂地区の小中学校新採用教員の研修会、「枝打ち体験」が新巣村有林で行われました。

参加者のほとんどは、3月まで大学生。もちろん枝打ちのこぎりなど持つのは初めてという人ばかり…。

額に汗して働いた山仕事体験は、おそらく夏休み1番の思い出になったことでしょう。

(関連記事9ページに掲載)



いつもは先生、でもこの日は生徒

広報 ひがししらかわ

1994 8 No.398
平成6年

人口の動き

一7月末住民登録人口から一	
世帯数	906世帯
人口	3,410人
転入	0人
転出	2人
出生	0人
死亡	4人
先月と比較して	6人減
昨年同月と比較して	29人減

て今戦争とは



四十九年という年月は、村の人たちの心の中に、そして東白川村という社会の中に「戦争」ということがらをどのように消し去ったのでしょうか。あるいは何を残しているのでしょうか。

関係者の努力で、旧役場庁舎の石造りの倉庫が平和祈念館として生まれ変わり、村内から寄せられた多くの資料が展示されました。

その資料を通して、今の私達にとって「戦争」とは何か……を考えてみました。

八〇〇点の戦争資料

で埋った平和祈念館

旧ソ連領内のフラスノヤルスク、ブリヤケン、テイヤン、オーゴル、カールマルクスなどの抑留地を移動し、戦争が終わってからも三年間、一人の兵士の足元をしっかりと支えて、昭和二十三年六月十二日、舞鶴港で日本の土を踏んだ靴。(上の写真)

この靴を見た中学二年生古田雄貴さんの感想はただひとつ「すこかった」。何が、どこがすこいと簡単にいうことを許さないすごさを、きつと大勢の人が感じることでしよう。

今年の六月二十六日、新装なったはなのき会館のホール一杯に村内から集

平和祈念館全景



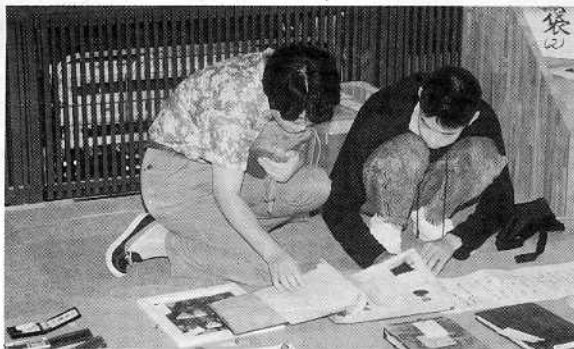
められたおよそ八〇〇点の戦争資料が並べられました。

今の中学生は戦争が終わってから三十年以上たつて生まれた人たちです。その彼らが、集められた資料を見に来ました。

戦争を知らない世代の彼らが白紙に近い心でこれらの「遺品」を見てどう感じたかは興味深いところですよ。

「千人針」は一人一人の気持ちの移り移っているような気がした。(安江邦晴さん・中三)。

千人針は、肉親を戦争へ送った母が、妻が、まず最初の一针を自分で縫って、家族へ友人へと手渡しても、千人にはほど遠く、しまいには見ず知らずの人まで頼んで完成させる執念の護符でした。

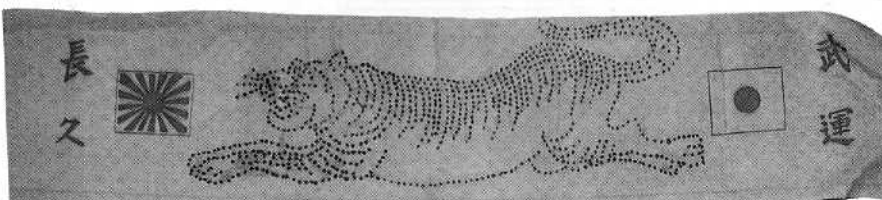


整理中の遺品に見入る親子

君、死にたもう
ことなかれ……

人間個人の自由を基本にした現在と違って、当時の価値観は、すべて国家が中心でした。戦争も国のため、命を捨てるのも国のため。しかし、わが子や夫を戦場へ送った女性の胸の内は、「どうか無事に帰って来てくれ」の一念であったことは想像できます。

それを言葉にすることもはばかられる世相の中で、千人針は千人の願いを集約した、実はたった一人の女の執念だったのかもしれない。



慰問袋の中に入れてられて戦場の肉親へ送られた千人針

私たちにとっ

四十九年目の今こそ

見えるものがある

昭和十三年八月三十一日、上海の野戦病院（戦場での病院）で一人の若者が息を引き取りました。

その七時間四十八分前、死期を覚って付き添いの者に紙とペンを要求し、ようやくしたためた遺書には、天皇陛下の文字とほとんど読み取れない二行の内容は、「老父母 一面 野原を行く」とあります。



自分の死よりも家に残した老父母を案じ、その真情を詩に託そうとしたと思われま

力尽きた未完のこの詩は、個人の立場を無視し、強制的に死に対面させる「戦争」というものの中で、かえって強烈に光る肉親愛を語ってくれます。

千人針が、残された者の執念ならば、戦場の遺書には、死に臨んだ者の執念が見え、その執念は、「肉親とともに生きたい」という、平和な世ではごく当たり前の、どこでも手に入る人間らしい生活への願望のよ

うに思えます。
「学校で習ったことと大違いでびっくり」（安江邦晴さん・中三）
「戦争があったこと



平和祈念館内部

は知っていたが、すごい、恐いと思

った」（桂川絵里さん・中二）
中学生たちのこの感想からも伺えるように、物いわぬ遺品が四十九年目にして語りはじめました。

今の若い世代の一般的な「戦争」への認識は、中学生の言葉にもあるように、「一応、戦争があったことは知っている」というものです。戦争が終わってあと一年で五十年という歳月を考えればそれは当然でしょう。

しかし、歴史の中には忘れてはならないこともあり、また新しい世代が新しい視点で戦争を考

満州開拓記念碑

こもれびの里に建立

太平洋戦争が始まった昭和十六年の二年後、満洲北部（現在の中国東北部）に第二の東白川村を作ろうという「分村計画」によって三七〇人もの村民が、ソ連国境に近い東柳毛溝という所に送り込まれました。

戦争が終わった昭和二十年八月から、開拓団は敵地の真ただ中に変わりました。泥水をすすりながらの引揚げの苦難でしたが、それを語る人もすでに多くが世を去りました

平和祈念館の中には「満洲開拓団」に関する資料はほとんど見当たりません。それは、すべての財産を満洲に持って行き、すべての財産を取り上げられて文字ど

おり着のみ着のままです。引揚げて来たためです。

八月六日、平和祈念館前に建てられた記念碑

に後世への歴史の伝達が託され、「戦後」はまもなく半世紀となります。

（平和祈念館所在地はなのき会館前広場）



さすがの五介も驚いた!!

全域公園化構想の一つとして昨年度整備された、五介

の滝公園で、去る七月十七日、「公園まつり」が開かれ、

三百人を超えるみなさんが参加しました。



村で三つめの 親水公園

国や県の補助事業を受けて村内の清流沿い十か所に水と親しむ公園を設け「川のふれあいゾーン」を整備する「東白川村全域公園化構想」。昨年この構

想の中から、平に「鮎ヶ瀬公園」が陰地に「白川瀬音公園」、久須見に「五介の滝公園」の三か所が整備されました。

白川の支流に作られる公園として最初となる五介の滝公園は、村に残る「五介伝説」の逸話にちなんだ滝をメインに遊歩道や東屋、橋などを整備したものです。

「真夏日」となった七月十七日、地元久須見集落の皆さんを中心に



ちびっ子たちに人気の魚つかみ

公園完成を祝うとともに今後の安全納涼を兼ねて企画された「公園まつり」が盛大に行われました。

アイデアを満載 したおもてなし

当日は、午前九時三十分から、安全祈願祭が行われ、式典の最後

に、村長から五介の滝公園運営委員長古田茂樹さんに管理委託書が手渡されました。

人出の方は、十時を回ったころからあふれ始めピーク時には、村内外から約三百人のみなさんが来場。もしもこの様子を

見れば、ひっそりとしたこの滝を絶好の隠れ家としていた五介もさぞやびつくり仰天したに違いありません。この日は、より多くの皆さんにお越しいただこうと五加センター発着のシャトルバスが行き帰り二便ずつ運行。



竹を利用した流しそうめん

その甲斐あってか、小さい子どもたちの参加もたくさんありました。

この日のイベントは、新鮮野菜のバーガーから、子どもたち参加のあまごつかみ取り、さらには幼児を対象にした宝探しなど盛りだくさん。

アマゴつかみ取りは、滝より上の浅瀬では、低学年初級コース、滝つぼでは高学年上級コースに分かれて行われました。合計百六十四人を放流。ほとんどが時間内に捕り尽くしましたが、あとかたづけの際、まだ逃げのびたアマゴもちらほら。おそらく、この日五介の晩ご飯のおかずになったのでは…。

大評判！流しそうめん と、五介の山賊焼。

イベントといえ、何といつても楽しみは、「食べ歩き」。この日は、久須見の皆さんや五加地区の有志による若手の皆さん手作りの五平もちやバーベキュー、流しそうめんなど、こつてりしたのからあっさりしたものまでまさにフルコースが用意されました。

中でも、竹を割ってといがわり使った流しそうめんやその名も「五介の山賊焼」と名付けられた、バーベキューは、人気の的。これは、炭火と塩、串などを貸し出して、子どもたちがつかみ取りで捕ってきたアマゴをその場で調理し、焼いて食べるというもの。子どもたちがカッターナイフを使い、見よう見まねで恐る恐る調理する姿が印象的でした。また、川魚がだめという人のためには、地鶏の焼き肉も用意。

この日は暑い一日になったもの。こうした至れり尽くせりのおもてなしに加え、澄んだ空気とひんやりとした清流や滝は、参加者にとって夏バテも吹き飛ばすような何よりのごちそうになったことでしょう。

わずか四か月間で 落書帳、はびっしりに

このように五介の滝公園まつりは、地元や五加地区の若手の皆さんの協

力によって大成功を収めました。

ところでこの五介の滝公園には一つのおもしろい試みがなされています。それは、「ご自由にどうぞ・落書帳」と表紙に書かれた大学ノートです。訪れた人が、どんな印象を持ったか、どんな感想を抱いたかは管理する側にとっては最も気になる場所です。

何とこの日には、三月に起こされたノートが二冊めに入っていました。中をめくると、遠くは、滋賀県や名古屋市の人などが登場し、「訪れた甲斐があった」「もっと多くの人に教えてあげたい」「今度は家族で来ます」など子どもたちのイラストに混じってさまざまな思いが書きつづられています。「人と自然のふれあいゾーン」は、地元の皆さんの管理の下でその目的をじゅうぶんに果たしているようです。



安江啓太郎さんふんする五介も登場

お待ちしております。太っちょ野菜にノッポな草花!!

「暑いですね。いつまでこの暑さは続くんでしょうね」「こうした会話がすつかりあいさつがわりとなつていく感じの今年の夏。とにかく暑い。」

夏は、比較的涼しく、しのぎやすいことで知られる東白川村もさすがに寝苦しい夜が続いています。

暑い夏といえ、植物にとっては、絶好の気候。畑を除いて見てください。ひよっとする



中でも白菜の重さ記録が四度、カボチャの重さ記録が三度、ヒマワリの草丈記録が三度、といった具合に二

花壇に伸び過ぎた花はありませんか。

今年も「ギネス東白川村何でも村一番」では、皆さんからのビックな応募をお待ちしております。

先月号の広報でもお伝えしましたが、大沢の今井房雄さんが捕られた重さ二三〇〇g、長さ一〇七cmの大ウナギのほか宮代の熊崎進さんか

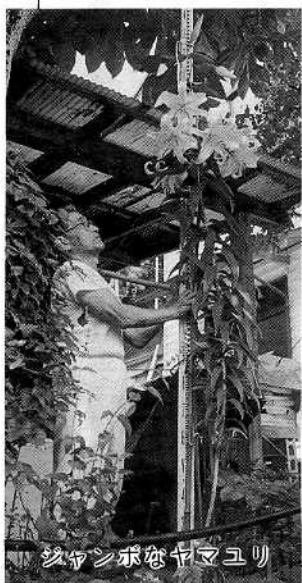
ら応募があつた重さ一〇六〇g、長さ五四cmの大ナマス、平の栗本康夫さんの草丈243cmのヤマユリなど早くも今年の大記録を予感させる応募が届いています。

昭和六十一年スタートした「ギネス東白川村何でも村一番」。昨年までに公式記録として十一部門、八十七点を登録してきました。

この間、いったん記録として登録されながら次年度以降に更新され、消えていった記録が三十六点を数えています。

中でも白菜の重さ記録が四度、カボチャの重さ記録が三度、ヒマワリの草丈記録が三度、といった具合に二回以上記録が更新されているものが九品目に及んでいます。

「毎年出来るものより大きいかな」といったようなものがあれば是非一度記録をお確かめ下さい。受付は役場企画財政課（有線五一八五）です。



ジャンボなヤマユリ

おしせ ら

こんにちは
社協です

「塵もつもれば山となる...」。まさにこの言葉ぴったりなのが空缶です。

ボランティア団体有留美会は、空缶やプルトップを集め、その収益を有留美文庫や車椅子の形にして各施設へ寄付しています。

「ちよつとした思いやりでできる活動」。皆さんもこうした活動に参加してみたいかがでしょうか。

岐阜県職員を募集しています

県では、来春採用予定の県職員を若干名募集しています。

●受験資格／①短大卒業程度（土木）昭和四八年四月二日～昭和五〇年四月一日までに生まれた者（司書）昭和四四年四月二日～昭和五〇年四月一日までに生まれた者で、司書、司書補の有資格者。または、平成七年三月三十一日までに資格取得見込者。②臨床検査技師・診療放射線技師（昭和四年四月二日～昭和四九年四月一日までに生まれた者で、臨床検査技師及び診療放射線技師の免許を有する者または、平成七年の国家試験で免許取得見込者。③高校卒業程度（事務・土木・農業土木・農業・林業）昭和四八年四月二日～昭和五二年四月一日までに生まれた者。

●受験手続／・申込書請求及び詳細：岐阜県人事委員会事務局職員課（〒五〇〇岐阜市藪田南二―一―一 ☎〇五八二

平成七年版県民手帳の予約受付中

「心を潤す県民手帳」。県民の皆さんに親しまれている「岐阜県民手帳」の平成七年版が県統計協会から発行されます。県政、市町村勢が一目でわかる最新のデータを掲載した各種統計資料のほか日常生活に役立つ事項を収録した便利で使いやすい手帳です。

【サイズ】16・9×9・1㎝
【ページ数】一八〇ページ
【色】紺、エンジ、グレー、緑、アイボリーホワイト
【価格】四五〇円
【申込方法】班長さん、組長さんを通じてお申込み下さい。

※詳細は、企画財政課（有線五一八五）まで。

「高齢者多数雇用奨励金」
説明会が開かれます

「高齢者多数雇用奨励金」とは、六十歳以上六十五歳未

八月は道路をまもる 月間です

満の高齢者を六割を越えて雇用する事業主に対して支給する奨励金で、高齢者の多数雇用の一層の促進及び定着を図ることを目的とした国の助成制度です。「高齢者多数雇用奨励金等説明会」が次の日程で開催されます。

●とき／十月十七日午後一時から
安定所

●ところ／美濃加茂公共職業安定所

※詳細については、（社）岐阜県雇用開発協会（☎〇五八二（七二）三二五二）まで。

道路は「人と暮らしを支える社会空間」。ゆとりある道路空間を保つには、ちよつとした思いやりが大切です。

県が推進する「日本一住みよい岐阜づくり」のため道路は大きな役割を果たします。

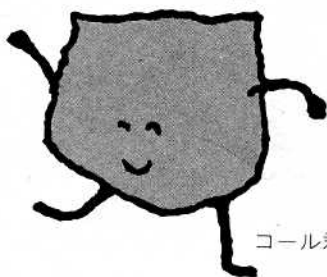
今月は「道路をまもる月間」です。私たちの共通財産を、安全・便利・快適に利用することを心掛けましょう。

石炭の日「クリーン・コール・デー」

9月5日

石炭は21世紀を担う

エネルギー



コール君

保健婦だより

「生活改善」、「定期検診」、「自己チェック」これが「ガン対策」三本柱です。わが国における死亡原因のトップはガン。なんと、四人に一人がガンで亡くなっています。また、厚生省の一九九三年人口統計によれば男性の肺ガンによる死者が胃ガンによる死者を上回り、ガンによる死者の第一位になりました。九月は「ガン征圧月間」。皆さんは自分の体に気を配っていますか。働き盛りの年齢に多いガンだからこそ、日ごろのガン対策を怠って欲しくないのです。

岐阜県勤労者資金融資制度について

▼教育資金融資制度▲

【融資対象】岐阜県内に居住する勤労者のうち、自己またはその子弟が高校・大学などに進学する際に必要な資金。

【融資限度額】一〇〇万円

【融資利率】五・五三割（金融情勢により変動）

【融資期間】五年

▼住宅建設資金融資制度▲

【融資対象】岐阜県内に居住する勤労者が住宅の新築・購入・増改築のために労働金庫から借り入れる資金に対し利子の一部を補給します。

【融資限度額】

新築・購入 四〇〇万円
増改築 二五〇万円

【利子補給率】二・一九割

【融資期間】十年

【利子補給期間】五年
《申し込み及び照会先》岐阜県労働金庫本・支店（フリーダイヤル ☎〇一二〇（五五五）七五七）まで。

「第二回飛騨・美濃歌舞伎大会」が開かれます

地歌舞伎の魅力は、大歌舞伎とは異なり、役者と観客が一体となって独特のぬくもり

けいじばん

【戸籍】 (敬称略)

●いつまでもおしあわせに

土屋 正志 (武儀町)
安江ゆかり (陰地)

●おくやみ申し上げます

島倉ハルエ 77歳 (黒 淵)
今井 さき 80歳 (西 洞)
桂川 亮三 94歳 (栃 山)
村雲 清人 39歳 (神 付)

【善意】 (敬称略)

【社会福祉協議会へ】

現金10万円＝小池義行 (中谷)
現金5万円＝今井芳行 (西洞)
現金10,350円＝平11班清流会 (鮎かけ大会)

【東白川小学校へ】

飲み茶40*。＝東白川茶業振興会

【神土保育園へ】

飲み茶10*。＝東白川茶業振興会

【五加保育園へ】

おもちゃ、絵本50冊＝(有)安江建材(柏本)

が醸し出されるところにあります。県内には、こうした地歌舞伎が、先人や各保存団体の努力、地域の人々の支えにより受け継がれており、現在保存団体の数は二十七を数え、全国一といわれています。この県内地歌舞伎の保存・伝承の活発化と、一人でも多くの方に地歌舞伎のよさにふれていただくことを目的に、「第二回飛騨・美濃歌舞伎大会 瑞浪94」が開催されます。

●と き／九月十一日(日) 十時～十七時
●ところ／瑞浪市相生座
●入場料／無料

●出 演／美濃歌舞伎保存会、三郷歌舞伎保存会、東濃歌舞伎中津川保存会、明智町歌舞伎保存会
※詳しくは、県庁文化課 ☎〇五八二(七二)一一一一(内線)三五八五まで。

福祉医療受給証の更新について

福祉医療制度の受給者で、重度心身障害者や母子家庭などに該当している方は、九月三十日有効期限が切れます。対象となる方は、役場から申請書用紙が届きましたら、九月末日までに必要事項を記

入のうえ、保険証を添えて役場住民係まで提出し、受給者証を更新して下さい。
※詳細は、役場住民係(有線二一六二)まで。

母子家庭の

お子さんのために

児童扶養手当とは、生活の安定と自立を助け、お子さんの健やかな成長のために支給されるものです。受給対象の状態になってから5年経過すると請求できなくなるのでご注意ください。尚、現在受給している方は、現況届の提出をよろしく願います。

TOPICS

挑 戦

体験し始めて
わかったこの苦勞

「お茶の葉を飲み茶にするまでには、かなり力がある仕事なんですわね。」

七月十三日、東白川小学校六年生三十六名がお茶の手もみを体験しました。このお茶は、去る五月十九日に小学校のお茶畑から摘み取った葉を冷凍保存していたものです。

最近では、茶所東白川村でもなかなかお目にかかることが少なくなってお茶の手もみ。この日は講師として、七十五歳になられる、この道三十余年の大ベテラン、田口諫男さん（神付）と二十五歳の若手後継者、村雲昌久さん（神付）のお二人が実地指導にあたりました。

昼休みの途中から五時間目という短時間だったため、「中もみ」の段階までしかできません



汗びっしょりになりながらの体験

でしたが、日中うだるような暑さの中、しかも熱くなっている。せいろの上での作業となりましたが、子どもたちは汗だくになりながら積極的に伝統的手法を学びました。

真 心

笑顔と絵馬のプレゼント
誕生会に花を添え

「いくつになっても楽しい誕生日の思い出になれば」と話してくれたのは、平の安江一三さん。せせらぎ荘で誕生会が始まったのは、オープン当初から。月に一度、その月生まれの利用者を集め誕生日を祝うものです。



昨年からは、この誕生会に各保育園の園児たちが順番にせせらぎ荘を訪ね、おゆうぎや歌、ゲームなどでお祝いさんおばあさんたちと楽しいひとときを過ごしていますが、この誕生会に昨年からもうひとつ素敵なプレゼントが加わりました。安江一三さんの手作りの木工品です。昨年は、記念のメダルを



園児たちと楽しいゲーム

今年、対象者の千支のついた絵馬が送られています。リボンつけなどは、婦人ボランティアの方にお願ひされますが、あとは全て安江さんの手作り。昨年のメダルは年間約三五〇個作られたとか。今年の絵馬も昨年のメダル同様、大好評のようです。

奉 仕

「心、伝わってます」
赤十字奉仕団寝まき作り

「暑い夏を乗り切ってもらいために少しでも役に立てば。」

去る、七月十一日、東白川村赤十字奉仕団（代表安江光子さん）の皆さん三十八名による「寝まきづくり」が行われました。



心を込めて寝まき作り

この日作られた寝まきは、全部で十一着。参加者の皆さんは、ミシンや裁縫道具を持ち寄って、午前中をかけ作成。午後から在宅の寝まきのお年寄りの皆さんを訪ね、できたての寝まきをプレゼントしました。この寝まきづくりは四年前から行っていますが、夏物と冬物を一年おきで交互に作っているとのこと。

奉仕団活動は、この寝まきづくり以外にせせらぎ荘で週二回の調理ボランティアや大掃除のお手伝い、七十歳以上の一人暮らしのお年寄りのお宅を訪ねる「励まし運動」など多方面にわたっています。こうした中、今年も団員が倍増し、百二十名余りになると嬉しいニュースがありました。福祉の芽は着実に育っています。

話題集まれ!

体験

その名もフアームステイ 加茂農林高生農業実習

その名も「フアームステイ」。加茂農林高生生活科二年生による農業体験実習とホームステイをミックスさせた研修が、七月中に行われ、村へは、二十七日から大明神の桂川耕輔さん宅へ二泊三日で四人の女子高校生が訪れました。

参加したのは、武市由美さん（川辺町）、中屋由香さん（川辺町）、藤村友加里さん（美濃加茂市）、日比野智美さん（各務原市）。家が農家という生徒は、この内日比野さん一人。

研修内容は、早朝からトマトの収穫や出荷の手伝いはもちろん昼食の支度などにいたるまでのハードメニュー。しかし、そこは若さあふれる高校生、学校とは比べものにならないほど収穫量があつてびっくりしましたが、山に囲まれていて、夜は涼しいし、あと一週間くらい余分にいたいくらいです。と現代っ子らしい発言。



貴重な農業の担い手に...

「縁があれは村に嫁いでも...」と話してくれたかわいらしい研修生たちでした。

成果

夏休みでも遊んでいられません 先生たちの枝打ち研修



出発して、丸木橋を渡る

「切るたびに何ともいえない松の香りがして...」木を育て、山を守ることに切か、山を守っていく人たちの苦労が少しかつたけわかつたような気がします。

この春から可茂管内で小中学校の教師となつた皆さんの初任者研修が八月二日行われ、小学校三十三校、中学校十七校から八十八人の「先生一年生」が新築村有林で枝打ち体験をしました。村が会場となつたこの枝打ち研修は、今年で三年連続行われています。

この日指導にあつたのは、森林組合や林業グループの皆さんなど十数名。九班を編成し、それぞれのグループにつき一、二名が指導にあたりました。

今年の夏は、猛暑。この日も日中かなり、暑くなり、ふだんは子どもたちと校庭を元気に駆け回っている先生たちも、山へたどりつくだけで一苦労。夏休み明けには、一回りも二回りもたくましくなって教壇に立つことでしょう。

視察

「村の取り組みに脚光」 農政審が来村

八月二日、農政審議会動向部会の皆さん十名ほか農林水産省、東海農政局、県関係者など二十九名が村を訪れ、トマト選果場や味の館などを視察されました。

今回の視察は、中山間地域における将来の農業を考える上で、その現状把握をするため来村されたもので、県内では、下呂町、萩原町など六町村で視察が行われました。

通称「農政審」といわれる農政審議会とは、農林水産省などの元官僚や経済界、マスコミ関係者、学識者などで構成されている内閣総理大臣の諮問機関。昭和三十六年、農業基本法で制度化されたもので、国の農政への助言役を行う、いわば「ご意見番」です。今回視察メンバーの



一行を説明する選果場

代表を努めたのは原剛毎日新聞社編集委員兼論説委員。もちろん村へ農政審からお客さんがみえたことは初めて。視察先のトマト選果場では、桃太郎の試食もされました。



せせらぎ荘誕生会より

今月の笑顔さん

みんなが公園…のよつたなページ

貴重な体験になりました

加茂農林高等学校

武市由美、中屋由香、藤村友加里、日比野智美

私たち四人は、初めて東白川村へ来て、いろいろ貴重な体験をすることができました。

研修先の桂川耕輔さん宅は、今年から農家宿泊に参加されたご家庭の一つでしたが、この家の方たちは、みなさん親切な方ばかり。三泊四日という日程が、とても短く感じたほどです。いろいろな体験をした中でも、特に印象に残っていることといえば……。

- ① 東白川村の人は、温かい人ばかりだったこと。
 - ② 役場を訪問し、村長さんとお話できたこと。
 - ③ 本場の「白川茶」を飲むことができたこと。
- の三点です。特に、村長さんが話して下さった村の現状については、私たちにもわかりやすくとても勉強になりました。

今回の実習は、えらいというよりも楽しいことばかりだったので、また機会があれば遊びに行きたいと思います。広報で取材をしていただきありがとうございます。

お便り



桂川さん一家と記念撮影



職場から

味の館

目標十

万本！

味の館のトマトジュース生産がいよいよピークを迎えています。

一昨年、

村の特産品、夏秋トマトの規格外品を原料として誕生したトマトジュース「とまとのまんま」。トマトをまるかじりしたようなおいしさが大ヒットして、初年度の三万二千本から、昨年度が五万五千本、今年は一気に倍増し十万本を計画。この八月、九月が最盛期で、現在は、夏休み中の高校生など四人を含め、パートの皆さんなど十四人体制で一日約千本生産中です。

最近では、岐阜市や美濃加茂市などのホテルからも定期的に注文が入っているとのこと。これは、朝食のメニューとして出されるほか、販売もされているようです。



▶安江夏美ちゃん

(雅次さん・美紀さん
長女・柏本)



▶安江岳大くん

(正巴さん・七美さん
二男・上親田)

八月、桂月、夏草、雲の峰。昭和二十年八月十五日は、夏空に雲の峰が聳え、焼けつくような暑さだったという。この日、日本は敗れ、太平洋戦争は終わりました。それから四十九年目の今日、三千四百六十六人の村民のうち昭和二十年までに生れた人は千六百八十人、この人達を戦争体験派とすれば、昭和二十一年以降の戦争を知らない世代は千七百三十六人。数の上ではもはや戦争は遠い歴史上の出来事に過ぎません。

しかし百五十九人の村民が戦場で死にました。満洲開拓団の苦難もありました。そして世界に対する日本の戦争責任も問われ続けています。葉月、ひまわり、虫の音。

2 ツーショット 農夫婦



「ナスづくりの仲間をもっと増やしたい」と話す、安江 優さん・嘉子さん

「毎年、一年生になった気持ちで取り組んでいます」と話してくれたのは、神付の安江優さん。

今月のツーショットは、夏秋ナスの収穫に大忙しの安江優さん、嘉子さんご夫妻を訪ねました。

ナスづくりを初めて六年という安江さんですが、例えば昨年のような冷夏の年もあれば、今年のような猛暑の夏もあり、気象条件が大きく収穫に影響するため、気持ちは、毎年一年生で取り組んでいるとのこと。こ

の八、九月は最も忙しい時期。毎朝五時から収穫が始まります。

今の時期は、収穫と同時に剪定もしていますから一年で一番忙しいですね。九月ころから秋にかけてたくさん出荷できるようにするのが理想ですが、今年のように暑くては、木が育ち過ぎてしまつて…。ナスは、連作障害もあるのでその場所では、二年くらいしか続けて作れません。ほ場の確保も大きな問題ですね」と話してくれました。

今月のことば

両親からは常に人に対する思いやりの大切さを教えられてきました。それは日本的な文化に根ざした気持だと思えます。(クリスティー・ヤマグチ 米国の女子フィギュアスケート選手、日采四世)

集落めぐり 日向

「背後に山を控え、日当たりのよい地形から、当初『日面』と呼んでおり、後に転じて『日向』という字を書くようになった。」(新編東白川村誌より)

日当たりのよさが、その地名の由来となったといわれている日向地区のちようど中心部に、越原神社が鎮座しています。

この神社について興味ある話が「岐阜県の地名」(日本歴史地名体系二一)にありますので一部紹介しましょう。

越原村庄屋安江雄右衛門正

歎の手記(越原文書)によると、寛政七年(一七九五)足の悪い女が病氣平癒を祈願しながら各地を巡り、当社頭において一夜祈ったところ、まったく平癒した。これを聞き病氣平癒の病人の祈願者が多くなり、来る人はみな平癒したという…。

病氣平癒祈願者が多かった当時の様子を今に伝えています。

図書室発・あなたへ



マリカの永い夜・パリ夢日記 吉本ばなな著

多重人格のマリカと十年の時を共にした元精神科医が見た、自由な魂たちの悲しみと希望の物語。

「マリカの永い夜」そして、霊が肉を包む南の磁場での著者の体感世界を表す「パリ夢日記」。

神秘を挿し絵と、美しいパリの写真がいっぱい詰まって、一冊で二度おいしい、初の書き下ろし小説と紀行です。

ホットアングル

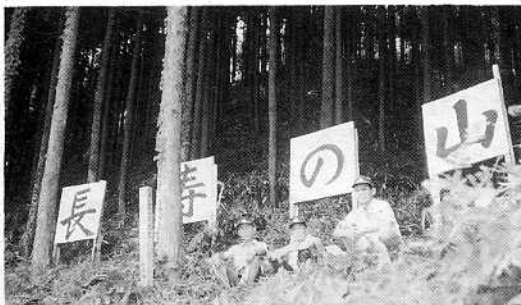


「長寿の山」

長寿会では昭和43年、明治百年記念事業として、長寿の山を設定(分収造林)しました。それから既に20数年。その間枝打ち、間伐等は一応完了し、立派に生育しています。

先日会長他3名で、下刈りを兼ね実地調査をしました。直径20cm以上のものが30本程数えられました。

(桂川政一さん(日向)寄稿)



▲安江遼子ちゃん(智樹さん・文子さん 長女)陰地



わが家のスター

狂俳

〔追善供養狂俳〕

旅 行 恥捨て、来て笑い合う

(探り) 帰りのバスは土産一ぱい

たいくつ 店番大きなあくびする

(探り) 景気が悪うて開店休業

情ない 慰安婦の手記胸えぐる

(探り) 軍靴に踏まれた春を返して

うつくしい 嫁が姑の杖となる

(探り) 老をいたわる優しい心根

村芝居 毛ずねの姫の声太い

(探り) お色気所かすこいがにまた

清流軒久永

大明神 故三戸 節雄大雅

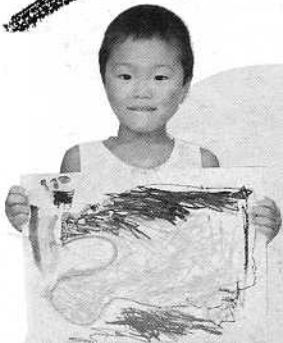
曲坂 故安江 富枝大雅

神付 故早瀬 勇造大雅



昨年、まれにみる異常な冷夏となり、米をはじめとする作物に大きな影響が残りました。今年は、昨年と全く正反対の猛暑となり、水不足が話題となっています。幸いこの地は、適なお湿度もあって、生活に大きな影響が及んでこないのがありがたいことです。▼寒暖、環境、生活をはじめとするさまざまな変化にもめげず悪条件を克服して生き、文化を発展させ、豊かな社会を形成してきました。▼その結果、特に日本人はここ一世紀余りで平均寿命を急速にのばしてきました。東白川でも健康で張りのある顔をしたお年寄りをあちらこちらで見かけます。▼豊かさへの追求が、日本人の平均寿命をのばしてきた訳ですが、いつまでも寿命がのびていくとは限りません。では、更に長寿を願う第一の条件は、足を鍛え続け移動する術を保ち、外界の刺激を多く受けて若々しく生きることが思いますがどうでしょうか。

発表の作品



▲「かばくん」をよんで
五加保育園
あぼたいちくん
(大沢)



▲「かばくん」をよんで
五加保育園
やすえしょうくん (柏本)



▲「自画像」
東白川中学校3年生 今井克武さん
〔県美術展準入选作品〕 (西洞)



▲「自画像」
東白川中学校3年生
安江三和さん (西洞)
〔県美術展準入选作品〕



▲「自画像」
東白川中学校3年生
田口加代さん (陰地)
〔県美術展準入选作品〕

猛暑日々今日も頼みの風少し
山陰の旅に戦友あり五月晴れ
短夜の夢細切れて醒めにけり
氏神の井戸船涼しく水溢る
漢法や花どくだみを摘みて乾す
石垣に残す一文字蛇衣
大輪のタリヤうなだれ雨の朝
みまかりし妹冷たき猛暑かな
葉桜や皇居拝観お立台
いたゞきし腕豆霊前に供へけり
悼みつ、座すや螢火舞い戻る

日向 安江一滴水
栃山 安江市助
加舎尾 新田義男
平 安江武子
平 今井統子
曲坂 荊田清美
中通 村雲みか子
西洞 河田あや子
日向 田口秋映
平 安江すみよ
西洞 河田重喜

投稿は奇数月の二十日までに、俳句は西洞河田重喜宛・狂俳は陰地安江永吉宛までお寄せ下さい。なお、次回狂俳の題は「猛暑」泣きながら「ぼんやり」です。